

| | | | |
|-------------|--|---------------------|--------|
| 事業名称 | “ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクト | | |
| 実行委員会 | アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会 | | |
| 中核館 | ボーダレス・アートミュージアムNO-MA | | |
| | 住所 | 滋賀県近江八幡市永原町上 16 | |
| | TEL | 0748-36-5018 | FAX 同左 |
| | ホームページ | http://www.no-ma.jp | |
| 構成団体 | ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（社会福祉法人グロー [GLOW]）、滋賀県、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人愛成会、NPO 法人はれたりくもったり、滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会 | | |
| 事業開始時点の課題分析 | <p>障害者の芸術文化活動を取り巻く国内の現状として、新しい文化芸術基本法において、基本理念の改正内容のひとつに「年齢、障害の有無又は経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備が図られなければならない」と改正された。</p> <p>また、平成 30 年 3 月 6 日に閣議決定された、文化芸術推進基本計画の目標の一項目には以下の記載がある。「美術館、博物館、図書館等は、文化芸術の保存・継承、創造、交流、発信の拠点のみならず、地域の生涯学習活動、国際交流活動、ボランティア活動や観光等の拠点など幅広い役割を有している。また、教育機関・福祉機関・医療機関等の関係団体と連携して様々な社会的課題を解決する場としてその役割を果たすことが求められている。」</p> <p>一方、障害者基本計画（第 4 次）（案）〔平成 30 年 2 月 16 日パブリックコメント版〕においては、「障害者が地域において文化芸術に親しむことのできる施設・設備の整備等を進めるとともに、障害者のニーズに応じた文化芸術活動に関する人材の養成、相談体制の整備、関係者のネットワークづくり等の取り組みを行い、障害の有無に関わらず文化芸術活動を行うことのできる環境づくりに取り組む。特に、障害者の文化芸術活動に対する支援や、障害者の優れた芸術作品の展示等の推進を図る。」と記載されている。</p> <p>このように、障害者の芸術活動支援、鑑賞活動支援の推進が求められているが、文化芸術推進基本計画の「今後 5 年間に講ずべき文化芸術に関する基本的な施策」において、障害者の芸術活動についての調査の必要性は謳われているものの、他の分野と比較して具体的な施策が少ないと考えられる。</p> <p>加えて、障害者の生み出す優れた造形作品は、発信力の弱さや客観的な評価の目が入らないことから、その多くはまだ潜在的なものとなっている。表出しているものについても、展覧会やイベント等の発表機会はまだ限られていることが課題である。また、美術館やギャラリーなどにおいては、「障害者の文化芸術活動は福祉的な取り組み」との認識に留まっていることが少なくない。あわせて、障害者が文化芸術を鑑賞するための、ハード面でのバリアフリーや鑑賞支援、音声ガイドや点字による情報保障などの合理的配慮が十分ではないことが課題である。</p> <p>当実行委員会においては、アール・ブリュットの魅力発信等を通して、これらの課題解決に取り組んできたところであるが、これまでの成果を礎にして、さらに事業を発展</p> | | |

| | |
|-------------|---|
| | <p>させ、障害者の芸術活動支援をさらに地域社会に浸透させ、共生社会をつくる継続した取り組みとして定着させる必要がある。加えて、この取り組みを地域社会から全国に発信・普及する必要があると考える。</p> |
| <p>事業目的</p> | <p>障害者が芸術文化を鑑賞することや創作することの支援を地域住民等と共に行うことを通して、障害者の芸術文化活動を促進する環境を整備するとともに、地域全体に有機的な交流をもたらす“ボーダレス・エリア近江八幡”を形成することを目的に本事業を実施する。</p> |
| <p>事業概要</p> | <p>本事業では以下の芸術文化プロジェクトを実施し、実施過程の記録や振り返りをドキュメントブックとして取りまとめた。</p> <p>1. 障害のある人がアクセスしやすい美術館及び周辺地域の環境づくり（観る）</p> <p>(1) 公募キュレーターとつくる障害特性に合わせた展覧会の実施</p> <p>①展覧会「以“身”伝心 からだから、はじめてみる」の開催 会期：9月22日（土）～11月25日（日） 会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、奥村家住宅</p> <p>②関連イベント「秋のNO-MA映画祭&スペシャルトーク」の実施 開催日：11月11日（日） 講師：大西暢夫（「オキナワへいこう」監督） 西原孝至（「もうろうをいきる」監督） 会場：伴家住宅</p> <p>(2) 音と物語でつなぐプロジェクトの実施 「“耳”と“手”で観る、NO-MAと近江八幡」と題し、体験型鑑賞プログラムを展開 企画制作：長岡野亜（映画監督）、暮らシフト研究所、株式会社電気蜻蛉 会期：展覧会会期 会場：展覧会場</p> <p>2. アートを通して多様な人々が集まるオープンアトリエの開催（創る）</p> <p>(1) オープンアトリエの実施</p> <p>①オープンアトリエ“ENGAWA” 開催日：常時開催 会場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA前庭</p> <p>(2) 創作体験の実施</p> <p>①「自分だけの“香り”をつくろう」 開催日：9月29日（土） 案内人：香老舗 松栄堂、NO-MA学芸員 会場：第三区自治会館</p> <p>②ダンスワークショップ“からだで遊ぼう” 開催日：10月13日（土） 講師：高木貴久恵（振付家、ダンサー） 会場：近江八幡市文化会館</p> <p>③フォトグラムワークショップ“からだの影をつかまえる” 開催日：10月27日（土） 講師：浅見俊哉（写真作家、ワークショップデザイナー、キュレーター） 会場：第三区自治会館、八幡児童公園</p> |

| | |
|----------------------------|--|
| | <p>3. NO-MAと近江八幡を舞台にした地域交流及び情報発信の実施（繋ぐ）</p> <p>(1) 「小さなおまつり」の実施 「NO-MAのちっちゃなお祭り」 開催日：11月10日（土） コーディネーター：小山田徹（美術家、京都市立芸術大学教授） 久保田美生（ちっちゃい火を囲むプロジェクト） 会場：八幡児童公園</p> <p>(2) 地元住民や中高生らが魅力発信の担い手となる記者クラブの発足</p> <p>(3) 高齢者や障害者など多様な人が関わるボランティア運営の実施 意見交換会「プレゼンと交流のひととき」の実施</p> <p>(5) ドキュメントブックの作成</p> |
| <p>実施項目 ・ 実施体系</p> | <p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用手法の開発</p> |
| <p>施後の 成果・効果等</p> | <p>○障害特性に合わせた鑑賞の場 2か所、イベント会場4か所（目標：3か所）</p> <p>○展覧会への入場者数 2,486人（目標：延べ2,000名）</p> <p>○展覧会に出展する障害者の数 4名（目標：10名）</p> <p>○展覧会に来場する障害者の数 80名（目標：150名）</p> <p>○展覧会におけるの満足度 91%（目標：90%）</p> <p>○本事業に関わる地域住民 62名（目標：50名）</p> <p>○本事業に関わるサポーター 57名（目標：40名）</p> <p>○連携する地域の団体・機関の数 16団体（目標：10団体）</p> <p>○本事業を広報するホームページ（中核館管理の既存のサイト）へのアクセス数（事業年度中）108,588件（目標：80,000件）</p> |

【事業実績】

1. 障害のある人がアクセスしやすい美術館及び周辺地域の環境づくり（観る）

(1) 公募キュレーターとつくる障害特性に合わせた展覧会の実施

①展覧会「以“身”伝心 からだから、はじめてみる」の開催（9月22日～11月25日）

人材育成者数：5名、出展者数：8名、観覧者数：2,486名

アンケート結果：よい、まあよい91%（県外63%、滋賀県内36%、無回答1%）

②関連イベント「秋のNO-MA映画祭&スペシャルトーク」（11月11日）

参加者：「オキナワへいこう」21名、「もうろうをいきる」19名

(2) 音と物語でつなぐプロジェクトの実施

実施内容：作者情報の点字翻訳及び音声化、点字マットの設置、触れる

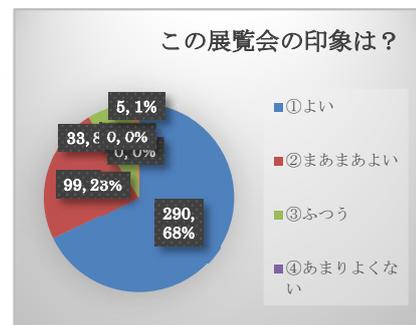
立体作品の設置、絵画の立体コピー化、音声媒体（作者イン

タビュー、作品と連動するオリジナル音声ドラマ等）の設置

アンケート結果：よい、まあよい80%

事業成果

展示企画のノウハウを身につけていただくキュレーションサポーターを受け入れ、作品の魅力の伝え方や障害特性に合わせた鑑賞の場づくりなどを幅広く体験いただいた。展覧会と並行し、地域の団体や専門家等と共働し、視覚障害者が視覚情報以外で能動的に作品を味わう鑑賞の場づくりを構築した。また、関連イベントとして、盲ろう者や精神科病棟に入院する人の暮らしを追った2つのドキュメンタリー映画の上映会を行い、障害者理解を深めることにも取り組んだ。



2. アートを通して多様な人々が集まるオープンアトリエの開催（創る）

(1) オープンアトリエ“ENGAWA”（展覧会開催期間）、参加者：延べ40人

(2) 自分だけの“香り”をつくろう（9月29日）、参加者：17人

(3) ダンスワークショップ“からだで遊ぼう”（10月13日）、参加者：9人

(4) フォトグラムワークショップ“からだの影をつかまえる”（10月27日）、参加者：10人

事業成果

参加者は、本展の出展作品に出会うことで創作意欲が触発され、オリジナリティーあふれる作品を創作することに繋がった。また、創作体験イベントやENGAWAで制作された作品の一部を、随時、会場に展示したことで場が活気づき、交流が生まれることとなった。

3. NO-MAと近江八幡を舞台にした地域交流及び情報発信の実施（繋ぐ）

(1) NO-MAのちっちゃなお祭り（11月10日）、参加者：延べ40人

(2) 会場ボランティア 参画者：52名

(3) ボーダレス・エリア記者クラブの運営 参画者：10名

(4) 意見交換会「プレゼンと交流のひとつとき」（1月5日）参加者：24名

(5) ドキュメントブックの作成

事業成果

「NO-MAのちっちゃなお祭り」は、多くの地域住民が集い、繋がりがいっそう親密化した。会場ボランティアには、総勢52名という地域住民を中心とした多くの人たちに活動の場を提供できた。ボーダレス・エリア記者クラブでは、参画者に本事業や周辺地域の魅力の発信を担っていただき、新たな情報発信モデルを構築できた。また、事業内容や成果をドキュメントブックとしてとりまとめた。本冊子を活用し全国に本事業の取り組みを発信する。

| | |
|--------|------------------------------|
| 全体事業名称 | “ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクト |
| 実行委員会 | アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会 |

1. 「観る」



展覧会「以“身”伝心 からだから始めてみる」



音と物語でつなぐプロジェクト
「耳」と「手」で観るNO-MAと近江八幡



キュレーションサポーターの活動



秋のNO-MA映画祭&スペシャルトーク

2. 「創る」



オープンアトリエ “ENGAWA”



創作体験「自分だけの“香り”をつくらう」



創作体験「からだで遊ぼう」

3. 「繋ぐ」



NO-MAのちっちゃなお祭り



ボーダレス・エリア記者クラブの取材活動



意見交換会「プレゼンと交流のひととき」